

硬病り院

HOSPITAL NEWS

2017年6月

発行所 せたな町立国保病院
発行責任 患者サポート委員会
〒049-4501 せたな町北檜山区北檜山378
TEL0137-84-5321
せたな町立国保病院ホームページ
http://www.town.setana.lg.jp/hospital/

せたな町立国保病院から
お知らせ

医師の退職に伴い、内科・整形外科ともに午後休診の日がございます。皆様には大変ご迷惑をお掛けしますが、ご了承願います。救急患者は受け入れております。



作業療法士の一言

少しでもせたな町の皆さんに貢献できるように、治療技術や人として成長できるように、努力を惜しまず、日々精進します。マイペースではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

作業療法士
野口聡太



夜間診療 火曜日・木曜日

〔受付時間〕
午後5時30分～7時まで

ぐるぐる・ふらふら・ふわふわ

めまいのお話

「めまい」という言葉が初めて使われたのは、万葉集と言われています。めまいの語源は、「目が舞う、目が回る、目が舞うように倒れる…」など諸説あるようです。

「めまい」を感じることは増えます。病院に「めまい」の治療を求めていらっしゃる方は多いのですが、実はこの「めまい」という言葉は定義が幅広いものです。立ち上がれないほど世界がぐるぐる回転する、真っ直ぐ歩くことができない、なんとなく足元がふわふわする、なんとなく頭がくらつきたなどと、「めまい」と一言で言っても人によって症状は様々です。

「めまい」のほとんどは「平衡機能の異常」と言い換えることができ、平衡機能に關与する身体の部位は、左右の耳の奥にある三半規管、内耳神経、脳幹、小脳、脊髄、手足を動かす各筋肉、視力と眼球を動かす

す筋肉があります。このいずれかの不調によって「めまい」は生じます。(精神的な影響の場合もあります)

しかし実際のところは、良性発作性頭位変換性めまい症(略してBPPVと呼びます)という良性の(命にかかわらない)「めまい」が90%以上と言われています。これは耳の奥の三半規管の機能が加齢とともに低下した状態と言え、①突然発症する②体勢を変えた数秒後にめ

まいを繰り返す③じっとしていれば60秒以内に治まる④その他に麻痺やしびれを伴わないという特徴が必ずあります。ちなみに聴力とは関係ありません。この病気と診断されている患者さんは期間を置いてめまい発作を再発することはありませんが、心配する必要はありません。数日で自然に治まるので、急な体勢変換をしないようにしていればいいのです。

診断は診察によってつけられますが、悪性の(命にかかわる)「めまい」を確実に見分けるために頭のCT検査をすることもあります。治療は安静が中心ですが、吐き気を伴うようなら吐き気止めの薬や注射をします。残念ながら、特効薬や予防薬は今のところありません。

強調しておきますが、「めまい」の強さと「良性・悪性」は関係ありません。吐き気を催したり立ち上がれないほどのめまいでも「良性」のことが多いです。自覚症状があいまいなほどでも脳の病気の場合もありますのであまり診断の参考にはなりません。早急な治療を必要とする悪性の(命にかかわる)「めまい」というのは、先ほどの①④のいずれか一つでも該当しない場合です。でも、例えばじっと座っていてもめまいが治まらない場合などは早めに病院に相談してください。

脳神経内科 森

医師になりたての頃、2年間は週120時間勤務をしていました。医師の勤務が100時間を越えたと精神を病む確立が高くなるという論文がその当時ありました。患者さんから感謝される。看護師から頼りにされる。そんな「褒美」が心身を支えたのだと思います。暇を見つけると、どこでも横にな

医師の退職について

り休憩をとる癖がつかまりました。その癖は今も続いています。

今、地方の自治体病院は大学からの派遣を期待できないため独自に医師を募集しています。地方で勉強したいという希少な医師の奪い合いを呈しております。そのような医師はお金を含めた厚遇を要望してはいません。

6月末で常勤医師が3人退職します。みなさんから退職医師に対して暖かいメ

ッセージをいただいております。ありがとうございます。きっと彼らの思い出と財産になります。有給休暇を消化するため5月末で勤務を終了している医師もおり6月から外来担当は変則になります。



「めまい」とはありふれた症状で、人生で一度も「めまい」を経験したことのない方は珍しいと思います。高齢になるほど「めま

めまいは、からだのバランスを保つ機能に障害が起こると生じます。めまいを訴える人の数は、厚生省の国民生活基礎調査によると、約240万人にのぼっています。

せたな町でもめまい症状で動けず、救急搬入される方が多くいらっしゃいます。今回は、めまいの話を脳神経内科医からお聞きしました。

「めまい」とはありふれた症状で、人生で一度も「めまい」を経験したことのない方は珍しいと思います。高齢になるほど「めま

院長室に飾られている歴代の7人の院長の時代は標欠(医療法で決められた医師数を満たさないうため診療報酬が減額される)だったそうです。今は標欠ではありません。

せたな町民は我慢強く、しかも要領が良いことが特徴です。このピンチを一緒に乗り越え、新たなせたなの医療を展開できるものと思っています。

院長 森

接遇向上委員会

医療現場のコミュニケーション

～こころ温まる医療を目指して～

接遇向上委員会は発足して4ヶ月になります。4月に全職員を対象に、患者さん、スタッフとの円滑なコミュニケーションを図るために自分の接遇態度を振り返ることを目的とした「接遇自己評価」とアンケート調査を行いました。(年3回予定)

また、5月15日～6月23日までの期間、患者満足度調査を行うため患者様やご家族、施設職員などへのアンケート調査を実施いたしました。今後、患者満足度調査のアンケート結果を報告するとともに皆様のご意見を基に、委員会が先頭に立ち、せたな町の皆様が満足できるより良い病院になるよう努めていきたいと思っています。

この度はお忙しい中、たくさんの貴重なご意見、ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。
接遇向上委員会 鈴木

5月31日、第一三共株式会社様にご協力をいただき、医業経営コンサルタント辻本先生をお招きし、接遇研修会を開催しました。66名の職員が研修に参加し、接遇に対する関心の高さが感じられました。

研修は、コミュニケーションや患者満足の視点、接遇マナー、患者対応の実際など、患者様の声を元にした内容で、改めて言葉遣いや対応などを振り返ることができる内容でした。研修を生かし、心温まる医療を目指したいと思います。



三浦医事係長 中川事務局次長 横川事務局長
事務局 伊勢 伊藤 鳴海

せたな町立国保病院事務局は、事務局長をはじめ6名の体制で事務を行っております。よく医事課と同じように思われがちですが、事務局には医事課もあり庶務課もあり病院全体の事務を担当している部署になります。具体的には、病院の備品購入や施設の管理、運営状況の把握、病院職員の福利厚生、診療報酬改定時の対応等様々な事案に対して対応している部署です。購入した業者への支払い業務、非常勤医師への報酬支払業務、運営状況の報告、医師や看護師不足への対策、スキルアップのための研修会への参加など多種多様な業務を行っている部署でもあります。4月からの人事異動で国保病院に勤務することになりましたが、昔の記憶を思い出しながら(笑)がんばりたいと思います。

医事係長 三浦

せたな町立国保病院事務局

患者サポート委員会

- 広田 看護師長
- 鈴木 看護副部長 (病棟)
- 蓑島 看護副部長 (病棟)
- 禿 看護副部長 (外来)
- 大津 相談員 (地域医療連携室)
- 白岩 外来看護師 (医療対話推進者)
- 伊藤 事務局医事係 (医療対話推進者)

平成29年4月、5月

[相談1件] [苦情3件]

病棟1件、医師1件、病院1件

患者サポート窓口

病院1階 地域連携室

<受付時間>

月・水・金 8:30~17:15

火・木 8:30~19:00



シルバーカーのご寄付
ありがとうございました!

当院正面玄関に歩行器とシルバーカーを設置いたしました。以前、当院の眼科を受診された際、受付から眼科診療室まで移動するとき使用した当院の歩行器が大きすぎ操作性も悪く、大変苦労されたというご意見をいただきました。そこで、操作性の良い、サイズ調整可能な歩行器を用意いたしました。さらに、使われなくなった歩行器、シルバーカーの寄付を病院だよりで募ったところ、シルバーカー1台のご寄付をいただきました。病院だよりの隅に載っていた小さな記事に目を止めていただき、ご寄付をいただいた感謝の気持ちとともに、さらに今後の活動への励みになりました。これからも一つ一つご意見に対応し、よりよい病院づくりに活かしていきたいと思っております。

編集後記

肌寒い季節も終わり、温かい時期になってきました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。せたな町立国保病院は良い意味での変化の時期を向かえております。待合室の院内掲示を患者様に見やすいと思っただけのように改善に努めております。また、外部講師による接遇研修を行い、接遇の向上にも力を入れておきます。いたらない部分は改善し、良いところは継続していきたいと考えておりますので、何かお気づきの点がありましたら、気軽に当院スタッフにお声がけ下さい。(伊)

外来待合室に、内科診療医の表示を開始しました。1週間の診察医の予定を表示しています。ご参照ください。